

2017年4月17日掲載

インプラント矯正治療

目的の歯 選択し移動

インプラント矯正治療とは、顎に6～10mmの特殊な細いネジを埋め込み、それを利用して歯を動かす方法です。普通のインプラント治療は歯のない所に根の代わりにネジを埋め込み、それを土台として上物をつくり、一生の使用を目的にします。それに対して矯正用インプラントは歯の移動用のみ利用し、矯正治療終了後は除去してしまいます。

歯を移動させるには支え（固定源）が必要ですが、通常、歯同士に力を加えると動かす目的ではない歯（固定歯）も移動してしまいます。

一方、このインプラントは絶対に動きませんから、目的の歯のみを選択的に移動することができます。

インプラント矯正治療の開発により、「①移動距離を大きくでき、方向を指定できるため抜歯をしないで矯正治療ができる場合が増える②動かしたい歯のみ、および多くの歯を一度に移動できる③今までは固定源の加強のため複雑な装置を利用してきたが、インプラントによりそれを使わないで済む④外科手術が適応の場合でも、矯正治療のみでできることがある⑤全体的に装置をシンプルにできるので違和感が少なく歯磨きもしやすくなる⑥部分矯正では固定源がしっかりしているために装置を付ける歯を限定できる」などのメリットが期待できるようになりました。

反対にデメリットとしては、必ずインプラントの埋め込みと撤去という外科処置が必要となることです。